

千秀だより

横浜市立千秀小学校

6月号



平成27年(2015). 6. 4

ご覧あれ、千秀魂～ありがとう感動を～

校長 市川 幸男

好天に恵まれた5月30日(土)、千秀小学校大運動会を開催することができました。当日は多くのご来賓の皆様にご光彩を添えていただき、また、会場いっぱいの保護者、地域の皆様の温かい大声援を受けて、子どもたちも元気に、そして伸び伸びと競技、演技をすることができました。心より御礼を申し上げます。さらに今年度特筆すべきは、本校を巣立った中学生たちが、後輩の運動会のためにボランティアとして、係活動を手伝ってくれた事です。陰になって運動会を支えてくれる姿に、本校139年の伝統と良き校風をあらためて感じました。



一方、一日の競技を終えた子ども達の顔は、ひとつの大きなことをやり遂げたという成就感のもと、本当に輝いていました。私はそんな子ども達の頑張る姿を見ると、胸が熱くなって仕方ありませんでした。当然のことながら競技には勝ち負けがあります。一位になる人もいれば最後になる人もいます。でも、力いっぱい競技する姿に勝ち負けは関係がありません。221名の本校児童の一人ひとりが、今日までの練習を頑張って積み重ね、互いに協力してより強い力、より巧みな演技を表現してくれたことが、この運動会の一番の宝物だと思います。

そんな子ども達の様子を見ていた時、ふっとソチオリンピックでの浅田真央選手のことが浮かんできました。ご存じのように、浅田選手は女子フィギアスケートの日本代表として、金メダルが期待されていました。ところが一日目、思いもよらない失敗。練習では成功させていたジャンプばかりか、つまづくことなど思いもしなかった技(わざ)でさえ、転倒が連続します。何が起こったのか、自分がどのような状態に置かれたのかさえ分からない状態に、浅田選手の顔は真っ青でした。アナウンサーも言葉を失いました。みんなの期待からは、大きく外れ、予想もしていない結果、16位でした。試合を続ける(試合に出る)意味さえも見失う結果に、多くの人が棄権するのではないかと思いました。でも翌日、浅田選手はリンクの上に姿を見せてくれました。目標を勝つことから、精一杯の演技をすることに切り替えて。そうすると、フリーの演技は、嘘のように、そして、もののみごとに決まっていきました。ファイナーレの天井を向いた最後のポーズが決まった時、その表情は涙に変わりました。くしゃくしゃの顔、噛みしめる唇と泣き顔。リンクの中央に戻る浅田選手の姿は、世界中を感動と涙の瞬間に変え、挑戦する意味を私達に伝えてくれていました。

今年の運動会にも、勝ち負けを超えたひたむきさからくる感動のドラマが、子ども達の間だけあったのだと思います。より強く、より速く、そしてより上手にと一心に思い、その実現に取り組んできた千秀の子ども達に大きな拍手を送るとともに、子ども達には、運動会だけにとどまらず、これから続く毎日の学校生活や日々の学習の中でも、運動会で示してくれた、一つの事にひたすら取り組み、挑戦する姿を期待していきたいと思います。また、それを支えていく学校でありたいとも思っています。